

2025年5月期 第2四半期
決算説明資料

2025年1月16日(木)
ダイト株式会社

東証プライム：4577

DAITO

目次

I.	FY2025 2Q決算概要	P 3
II.	中期経営計画「DTP2027」進捗	P 12
III.	FY2025 通期業績予想	P 19
Appendix.	会社紹介等	P 22

I . FY2025 2Q決算概要

決算ハイライト

売上高

✓ 245.8億円、前年同期比で+4.7億円、2.0%の増加

原薬は新規収載品の影響等により堅調、製剤は受託品減少も、OTC好調・Gx堅調で、全体売上としては堅調

売上総利益

✓ 43.7億円、前年同期比で△8.1億円、15.6%の減少

減価償却費の増加、棚卸品評価の影響、為替による原材料費高騰等の影響により大きく減少

営業利益

✓ 14.7億円、前年同期比で△8.1億円、35.7%の減少

研究開発費が減少するも販管費総額としては対前年同期比変化なく、売上総利益減少の影響により大きく減少

EBITDA

✓ 35.7億円、前年同期比で△4.1億円、10.3%の減少

棚卸品評価の影響、為替による原材料費高騰等の影響により減少

EPS

✓ 59.39円、前年同期比で△38.82円、39.5%の減少

売上総利益減少、投資有価証券売却、過年度法人税支払(子会社)等の影響

*ジェネリック(Generic) 医薬品 (他資料ではGEとも表現しています)

決算主要項目ハイライト

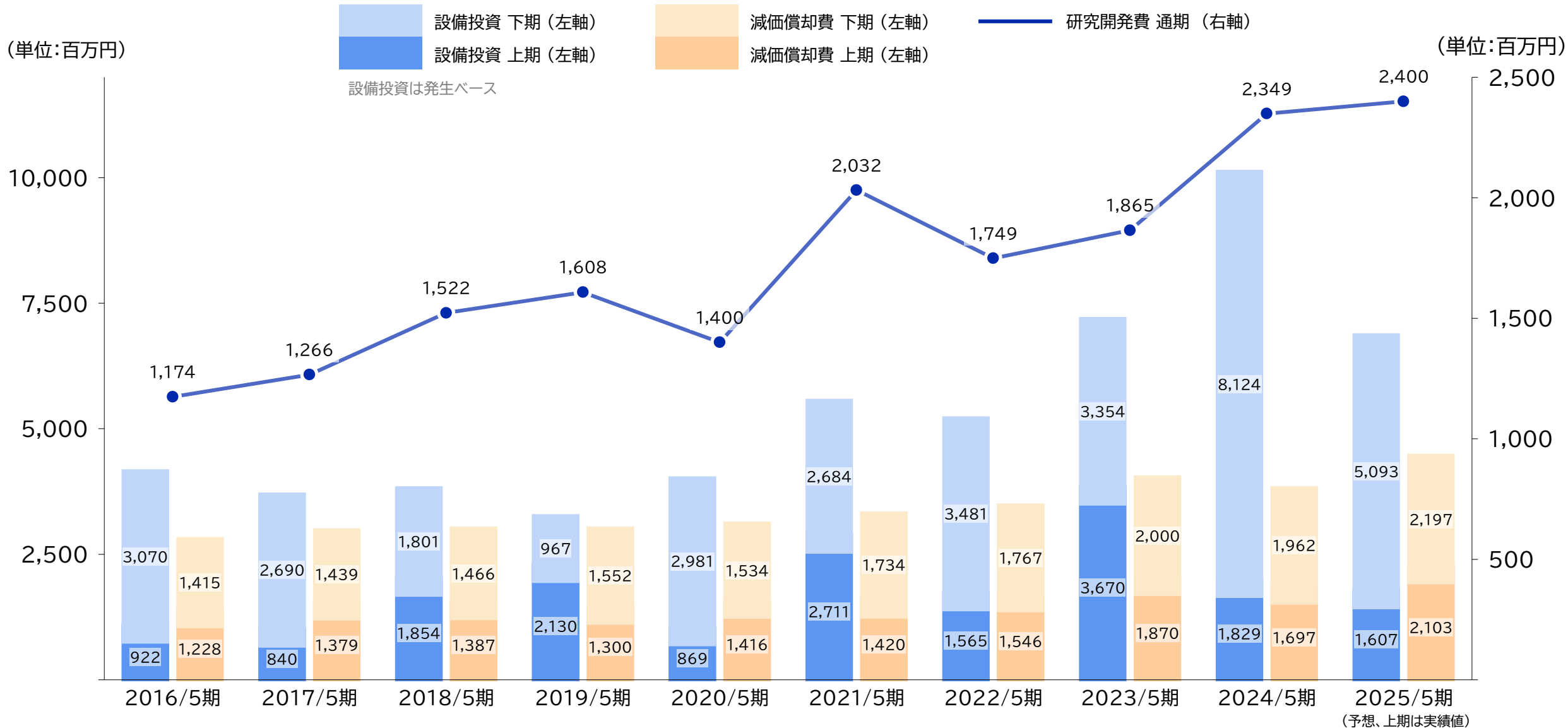
- 売上高は原薬・製剤ともに堅調に推移し、前年同期比 **+4.7億円、+2.0%の増収着地**
- 利益面は減価償却費の増加、棚卸品評価の影響、為替による原材料費高騰等の影響により、営業利益 前年同期比 **△8.1億円、△35.7%** と **厳しい状況**で推移

(単位:百万円、%)

	2024/5期 2Q	2025/5期 2Q	前年同期比増減
	金額	金額	%
売上高	24,110	24,584	+2.0
営業利益	2,289	1,471	△ 35.7
経常利益	2,314	1,470	△ 36.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,552	908	△ 41.5
EPS (円)	98.22	59.39	△ 39.5
EBITDA	3,986	3,574	△ 10.3
配当金(円/株)	30.00	35.00	—
研究開発費*	1,244	1,111	△ 10.7
減価償却費	1,697	2,103	+23.9
設備投資額	1,829	1,607	△ 12.1
為替(円/ドル)	145.8	151.6	—

* 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

設備投資額・研究開発費の推移





カテゴリー別売上高

■ 原薬は、2024年12月薬価収載品の販売が寄与し、**+2.7億円、+2.4%**と堅調に推移

■ 製剤は、受託品が大きく減少するも、OTCは好調、自社品Gx・Gx商品は堅調に推移し、全体としては、**+2.1億円、+1.7%**と堅調に推移

(単位:百万円、%)

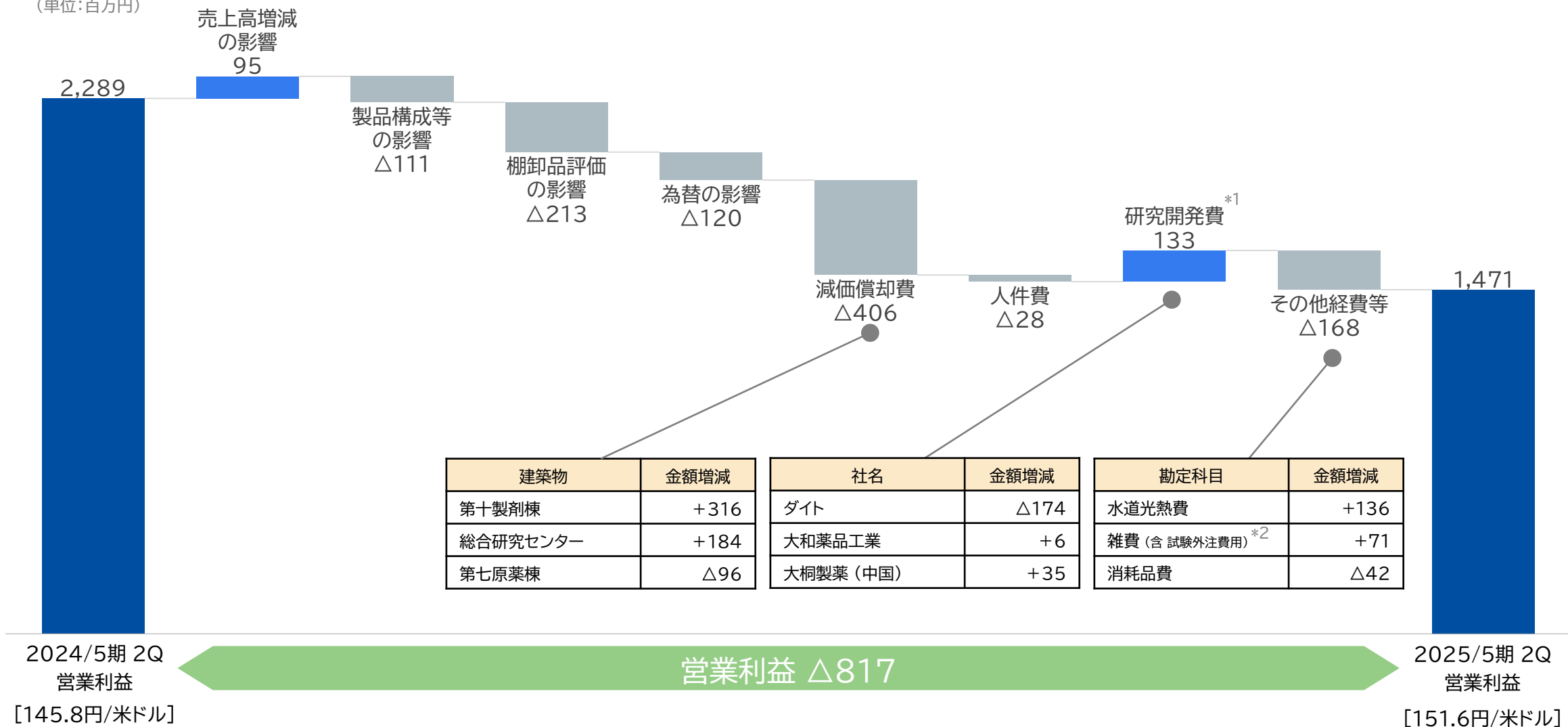
		2024/5期 2Q	2025/5期 2Q	前年同期比増減(%)
原薬 		11,306	11,583	+2.4
	製品*	10,570	10,742	+1.6
	自社品Gx	9,682	9,810	+1.3
	受託製造	888	932	+5.0
	商品*	736	841	+14.3
製剤 		12,691	12,907	+1.7
	製品*	11,896	11,543	△ 3.0
	自社品Gx	6,904	6,711	△ 2.8
	受託製造(医療用)	3,607	3,232	△ 10.4
	受託製造(OTC)	1,384	1,599	+15.6
	商品*	795	1,363	+71.4
	Gx	589	1,067	+81.2
OTC	206	295	+43.2	
健康食品		112	93	△ 16.4
売上高合計		24,110	24,584	+2.0

*「製品」とは当社グループ内にて製造または品質保証を行っているもの

*「商品」とは「製品」に該当しない医薬品、原薬、または賦形剤等。いわゆる取扱品

営業利益の増減分析

(単位:百万円)



*1 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

*2 ※ うちニトロソアミン対応 +30

要約貸借対照表

- 債権流動化残高の減少と11月末休日の影響等により、売上債権は **+30.4億円、+19.7%** と増加
- 生産能力や研究開発力の強化のための設備投資の期日到来と、株主還元に伴い、有利子負債は **+45.5億円、+67.2%** と増加 (単位:百万円、%)

	2024年5月末	2024年11月末	増減率
流動資産	41,460	43,601	+5.2
現金及び預金	2,727	3,241	+18.9
売上債権*	15,399	18,436	+19.7
棚卸資産	20,891	21,070	+0.9
固定資産	36,247	36,031	△ 0.6
資産合計	77,708	79,633	+2.5
流動負債	18,505	17,437	△ 5.8
仕入債務*	8,699	9,046	+4.0
短期有利子負債	2,099	3,299	+57.2
固定負債	6,937	10,174	+46.7
長期有利子負債	4,669	8,019	+71.8
負債合計	25,443	27,612	+8.5
純資産合計	52,265	52,020	△ 0.5

* 電子記録債権、電子記録債務を含み、ファクタリング債権、ファクタリング債務を含まない

要約キャッシュフロー計算書

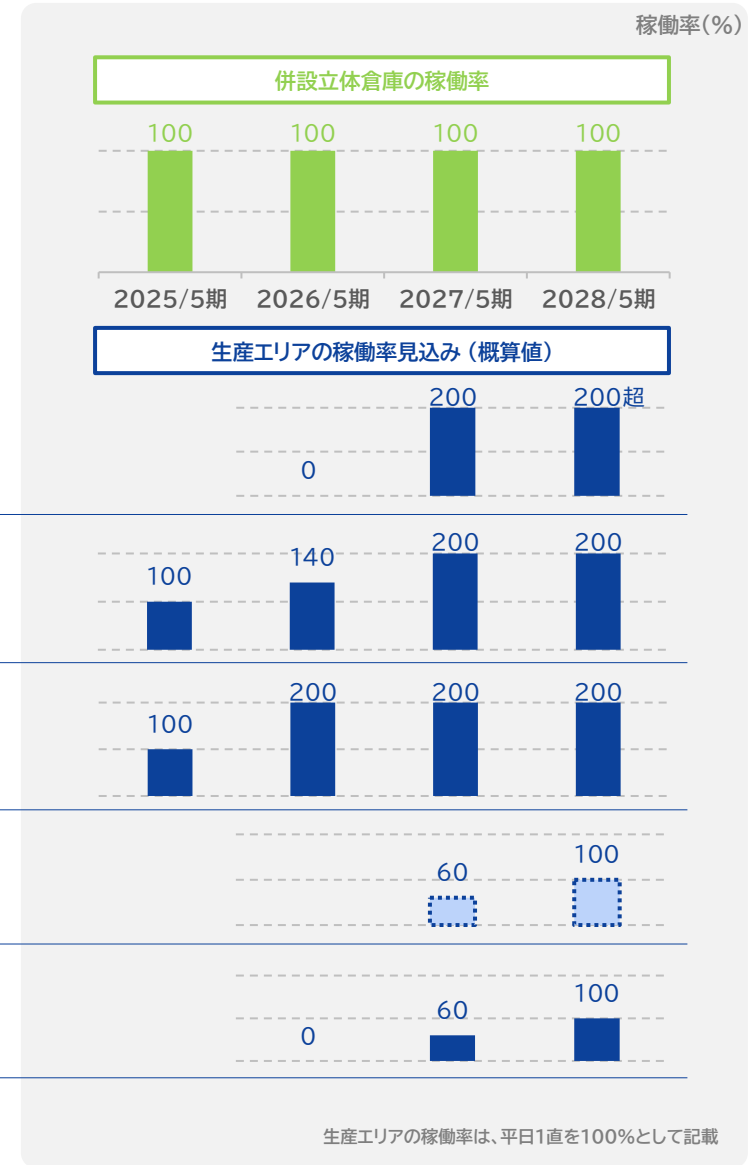
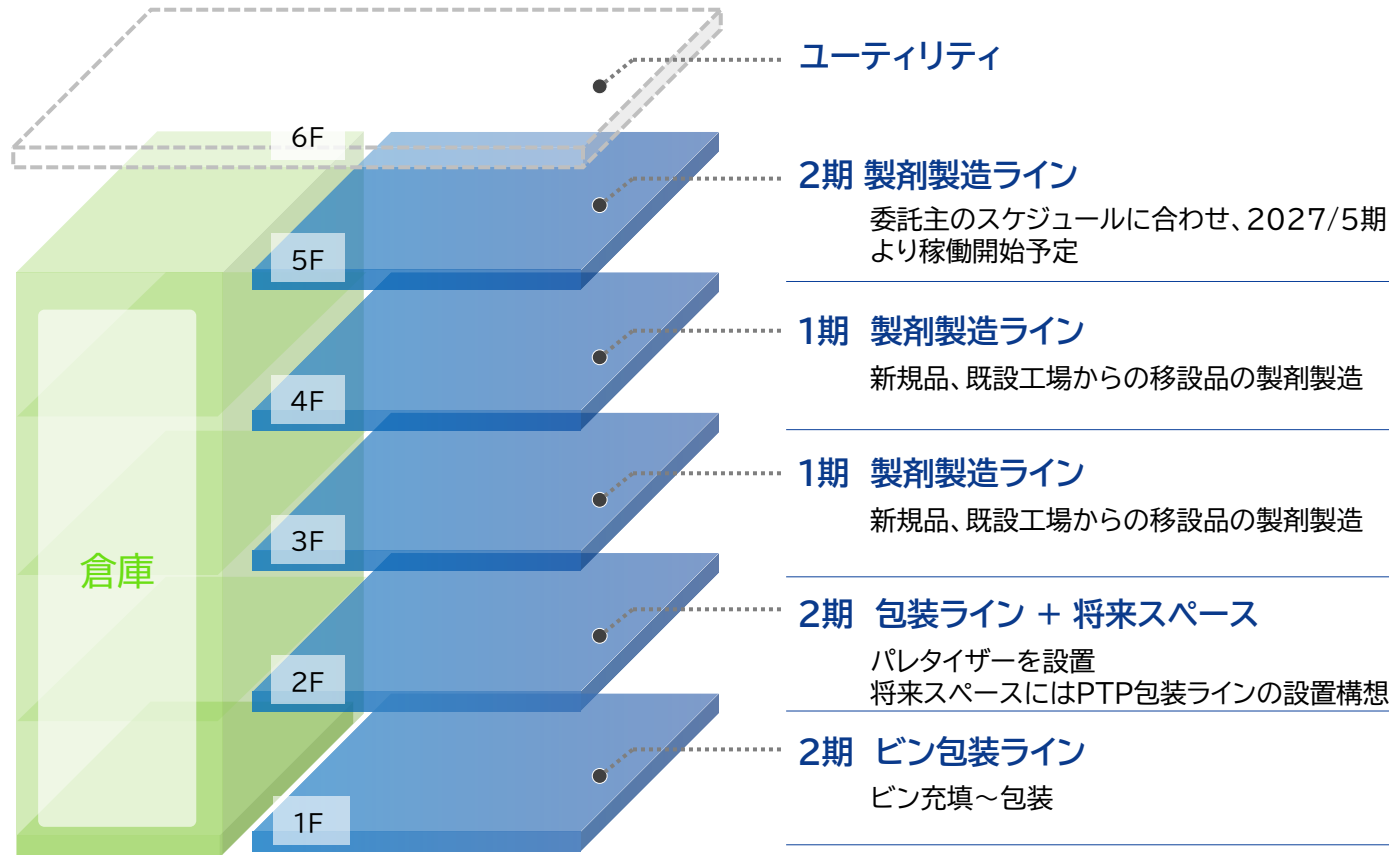
- 営業CFは、18.4億円の受取超過と、売上債権の増加を**棚卸資産管理の厳格化の開始等**により打ち返し、前期比微減での着地
- 投資CFは、**前期に竣工した設備投資の支払期日到来**により、52.8億円の支払超過

(単位:百万円、%)

	2024年/5期 2Q	2025/5期 2Q	前期比増減率
営業キャッシュ・フロー	1,946	1,840	△ 5.4
税引前利益	2,315	1,879	△ 18.8
減価償却費	1,697	2,103	+23.9
売上債権の増減額(△は増加)	△ 1,386	△ 3,058	-
棚卸資産の増減額(△は増加)	△ 1,701	△ 247	-
仕入債務の増減額(△は減少)	2,283	348	△ 84.7
法人税等の支払額	△ 518	△ 515	-
投資キャッシュ・フロー	△ 3,616	△ 5,287	-
有形固定資産の取得による支出	△ 3,627	△ 4,888	-
財務キャッシュ・フロー	2,609	3,964	+51.9
短期・長期借入金のネット収支	3,050	4,550	+49.2
現金及び現金同等物の期中増減額	978	514	△ 47.4
現金及び現金同等物の期末残高	4,585	3,241	△ 29.3

第十製剤棟の稼働状況と今後の予定

第十製剤棟のフロア別(工期別)の稼働見込み



Ⅱ. 中期経営計画「DTP2027」進捗

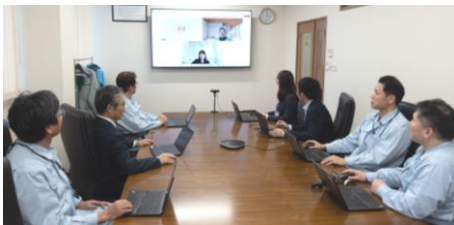
中期経営計画「DTP2027」の進捗について

■ ダイト事業戦略 5つの柱



1. 既存ビジネスの効率化

- 当社の強みである「原薬から製剤まで一气通貫生産」を強化し、「ONE Daito」として更なる高みを目指すべく、大和薬品工業との合併を決定
- ポートフォリオマネジメント部が発足、開発品の選定とステージゲート毎の判断を行うフレームワークを構築し、2025年1月より社長直轄の「ポートフォリオ会議」にて運用を開始



2. 中国ビジネスの強化

- 千輝薬業及び鼎旺医薬への出資比率引き上げは2024年8月9日(金)にクロージング、新しい董事体制での運営を開始
- 大桐製薬(中国)における中国内向けの自社開発製剤の2成分については引き続き承認待ちの状況
- 中国内向けに製造受託を予定する各品目について、開発が順調に進捗
- 大桐製薬(中国)における中国内向けの販売開始に伴う将来的な生産能力の増強に向け、事務スペースの別棟への移転及び倉庫の準備に着手



3. 新規ビジネスへの参入

- 提携先のノーベルファーマ株式会社との間で多系統萎縮症を対象とするオーファン新薬「NPC-29」の開発に向けた協業に関して基本合意
- その他の新規パイプラインについても協議を進展



4. PBR1倍割れ対策と資本配分の高度化

- 足元の株価水準を踏まえた対応と株主還元強化のため、30万株(自己株式を除く発行済株式総数の2.0%)の自己株式取得と消却を決定
- 流動性の向上と投資家層の拡大のため、株式分割(2分割)を決定



5. 人的資本への投資

- 社内公募制度の運用を開始
- 経営情報共有会の管理職向け公開を開始
- より柔軟な働き方を可能とする各種制度を準備中



詳細(1)

2025年6月1日、「ONE Daito」へ

DAITO

高品質で高効率な「原薬から製剤まで一貫通貫生産」
の体制を強化し、より機動的な相互連携で
更なる安定供給を目指す

DAIWA

大和薬品工業株式会社（消滅会社）

原薬製造に特化、圧倒的なシェアを誇る
品目を複数抱え、ダイトの製剤向けと
国内の製販メーカーにダイト経由で販売



DAITO

ダイト株式会社（存続会社）

グループの親会社として原薬と製剤の
研究開発から製造、販売まで一貫で手掛け、
FDA基準の品質管理体制を構築



詳細(2) 開発品選定とステージゲートジャッジの新たなフレームワークの構築

原薬・製剤の開発の流れとStage Gate(SG)イメージ



Stage Gate(SG)一覧 次の開発段階に進む前に関所(Stage Gate)で審議し、承認された場合のみ進むことができる

	SG1	SG2	SG3	SG4	SG5	SG6
原薬(S)	開発品目の選定	開発着手前	キロラボ製造後	治験用原薬製造前	PVの実施前	MF登録申請前
製剤(P)	開発品目の選定	開発着手前	プレBE試験前	BE試験前	承認申請前	製造販売承認後

詳細(3) 大桐製薬(中国)における中国製品の新たな販売承認取得、受託拡大、増産

STEP1 【現在】既存別建屋の活用

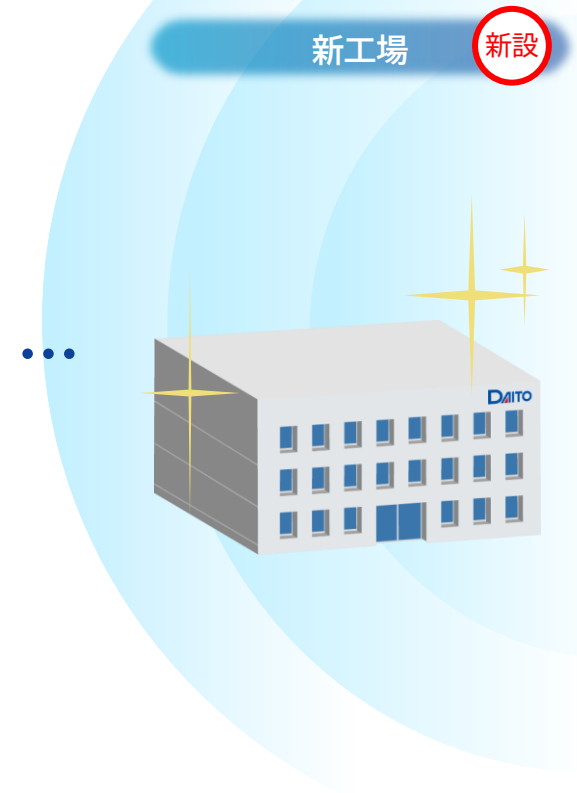
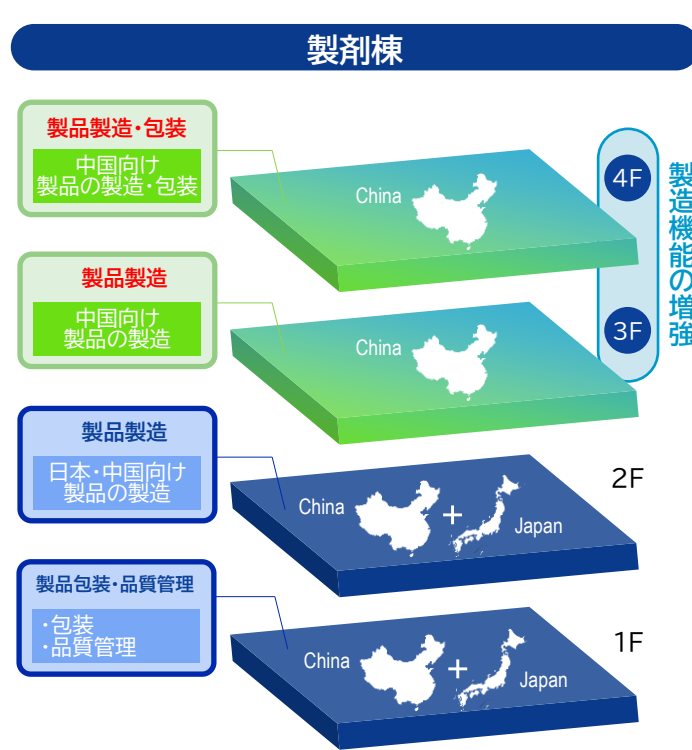
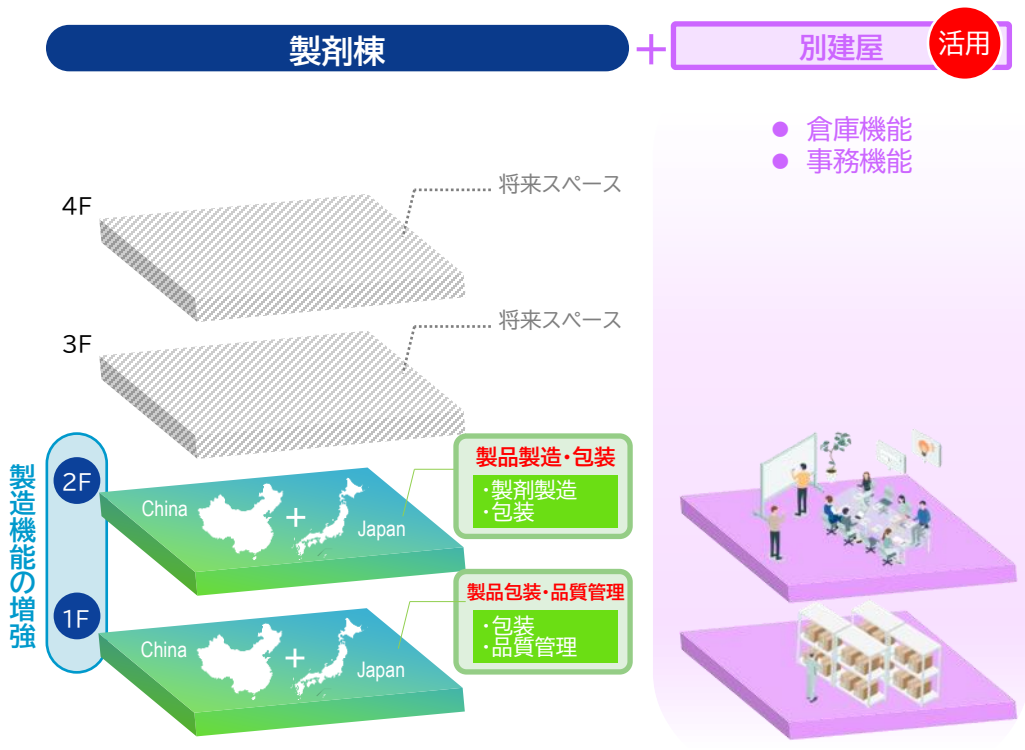
- 元々製剤棟1Fにあった倉庫機能の一部、事務機能を別建屋に移転
- 製剤棟1Fの品質試験機能を拡充、同2Fに中国製品向けの包装設備を新規導入
- 一定レベルの生産・品質管理機能の増強を図る

STEP2 3F・4F 将来スペースへの増設

- 自社品目の生産・販売が順調で、STEP1 の設備で今後の受託品目への対応が困難となる場合
- 3F・4F 将来スペースへの生産設備導入により製造機能の大幅増強を図る

… STEP3 …

新しい敷地に
新工場設立



詳細(4) 多系統萎縮症を対象としたオーファン新薬の開発に向けた協業

オーファンドラッグとは

	ジェネリック	オーファンドラッグ
対象疾患	生活習慣病や鎮痛薬などが多い	患者が5万人未満で、難病など
開発成功率	◎ 高い	△ ジェネリックに比べれば低い が、一般新薬よりは高い
開発費	◎ ～数億円	○ 数億円～数十億円(パートナー企業との共同支出)
売上規模・安定度	× 発売時にピークを過ぎていることが多く、 通例、毎年薬価改定により急速に下落	◎ 競合が少なく、薬価ダウンしづらい。 制度として10年間の独占期間
薬価	× 先発医薬品の50%未満	◎ 新薬として高薬価が期待
ターゲット市場	○ 原則として日本国内のみ	◎ 日米欧 (+中国等の新興国)
市場成長	× 今後は頭打ち	◎ 右肩上がりでの成長が期待
生産(設備)	△ 大量販売を前提	○ ジェネリックほどは大きくなく、大規模設備が不要

第一号案件に係る合意について

- 2025年1月15日付で、ノーベルファーマ社との間で、同社が開発を進める多系統萎縮症(MSA)を適応症とする、ユビキノール含有製剤「NPC-29」の開発に向けた協業にかかわる契約締結を進める基本合意

多系統萎縮症(MSA)とは

- 多系統萎縮症(MSA)は、脳内の特定の部位、特に基底核と小脳、および脳幹が萎縮または変性する神経変性疾患です。この疾患は自律神経系の異常を特徴とし、これにより血圧の自動調節、心拍数、呼吸などの自律神経機能が障害されます。また、MSAは運動機能障害も引き起こすことがあります。症状としては、安静時振戦、筋硬直、歩行障害等が挙げられます。
- 現在のところ、MSAは根治する治療法はありません。難病情報センターによれば、日本国内の患者数は10,528人(令和5年度末医療受給者証保持者数)とされています。

ノーベルファーマとの提携について(2024年6月18日公表)

- オーファンドラッグの開発で国内トップクラスの実績を誇るノーベルファーマ株式会社との「パートナー関係構築に向けた協定」を締結
- ノーベルファーマ株式会社と当社は、補完関係にある両社の強みを持ち寄り、オーファンドラッグビジネスを推進



ノーベルファーマ社との調印式
(2024年6月18日)

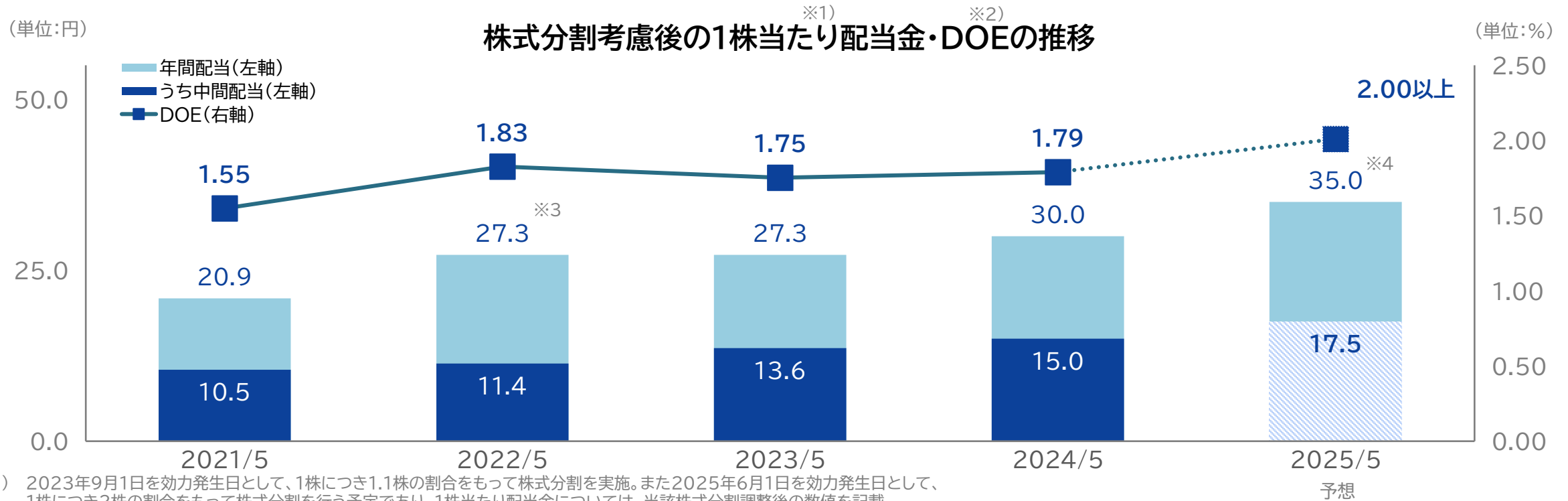
詳細(5) 自己株式の取得・消却と株式分割の決定

■ 自己株式の取得と消却

- 当社は2025年1月10日の取締役会にて、発行済株式総数(自己株式を除く)の2.0%に相当する30万株の市場買付による自己株式の取得と取得後の消却を決定致しました。今後も株価推移を見ながら、機動的な自己株式の取得を行える体制を整備して参ります。

■ 株式分割と配当方針

- 当社は2025年1月10日の取締役会にて、当社株式の流動性の向上と、当社の経営理念や今後の成長戦略に共感いただける投資家層の拡大を図ることを目的に、2025年6月1日を効力発生日とし、1株につき2株の割合をもって株式分割することを決定致しました。
- 当期の配当は既に公表の通り、前期比10円増となる1株当たり70円(6月1日予定の株式の2分割考慮後は1株当たり35円)を予定しております。



※1) 2023年9月1日を効力発生日として、1株につき1.1株の割合をもって株式分割を実施。また2025年6月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合をもって株式分割を行う予定であり、1株当たり配当金については、当該株式分割調整後の数値を記載

※2) DOE算出に関し、配当金総額及び期末株主資本を採用

※3) 2022年5月期の配当金には記念配当を含む

※4) 2025/5期の配当については、2025年6月1日付の株式分割後についても35円/年の配当を予定

Ⅲ. FY2025 通期業績予想

2025年5月期 通期業績予想

- 期初の予算通り、2Q時点の利益面の進捗は50%を下回るも、2024年7月12日公表の当期業績予想は不変を見込む
- 当社想定より円安で推移するなど厳しい経営環境は続くも、**値上げおよび経費削減の効果の発現、新製品を含む利益率の高い製品販売増加、第十製剤棟の稼働増加、長期収載品の選定療養によるGxシフトに伴う販売数量の増加**、などの打ち返し策により下期での挽回を目指す

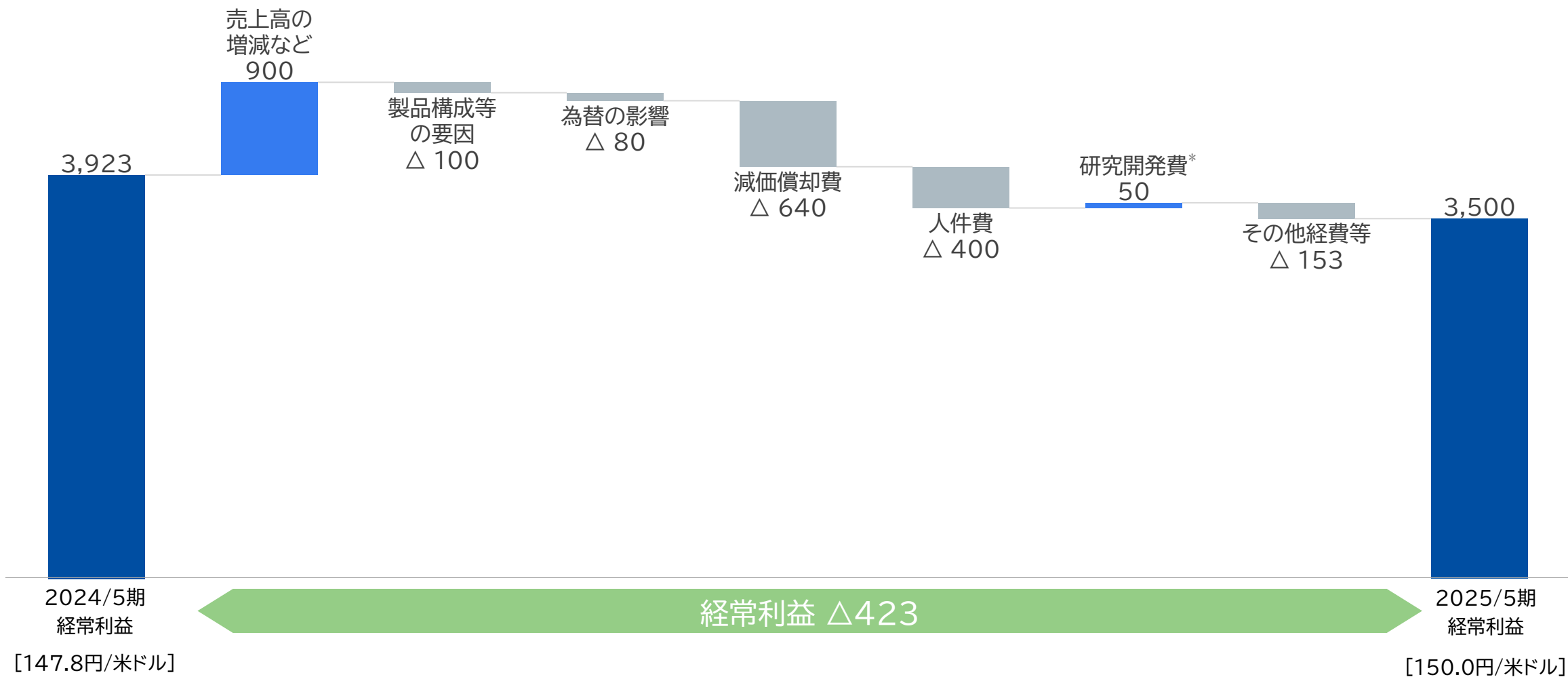
(単位:百万円、%)

	2024/5期 金額	2025/5期 予想 金額	前期比増減 %	2Q時点進捗率 %
売上高	46,895	49,000	+4.5	50.2
営業利益	3,894	3,500	△ 10.1	42.0
経常利益	3,923	3,500	△ 10.8	42.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,295	2,300	△ 30.2	39.5
EPS (円)	210.00	150.39	—	—
配当金(円/株)	60.00	70.00	—	—
研究開発費 *	2,349	2,400	—	46.3
減価償却費	3,659	4,300	—	48.9
設備投資額	9,953	6,700	—	24.0

* 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む

経常利益の増減分析

(単位:百万円)



* 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

Appendix. 会社紹介等

プロフィール

社 名 : ダイト株式会社

本社所在地 : 富山県富山市八日町326番地

設立年月 : 1942年6月

決算期 : 毎年5月末

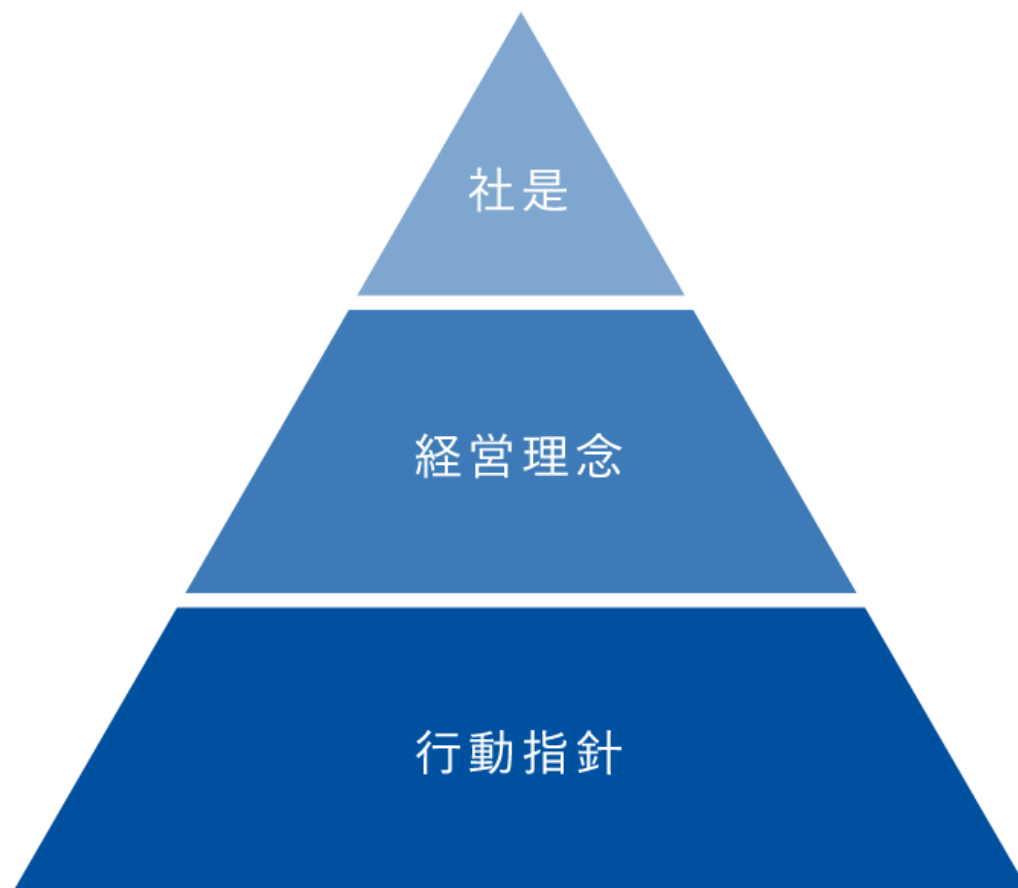
代表者 : 代表取締役社長兼CEO 松森 浩士(まつもり ひろし)

従業員数 : 1,070名(平均臨時雇用者数 38名 外数)※連結、2024年5月31現在

事業内容 : 原薬及び製剤の製造販売・製造受託・仕入販売、健康食品等の販売

子 会 社 : 大和薬品工業株式会社(原薬の製造)
Daito Pharmaceuticals America, Inc. (原薬・製剤の輸出業務支援)
大桐製薬(中国)有限責任公司(中国での製造)

社是・経営理念・行動指針



社是

創造 闘志 誠実

- 一、アイデアをもち考える人間
- 一、実行力と根性のある人間
- 一、自分は企業を守る人間

経営理念

社員が「楽しい会社、楽しい仕事」を実感できる働きやすい職場を作り、健康な社会作りに貢献し、選ばれ続ける企業を目指します。

- 「楽しい会社」とは
社員自らの成長と会社の成長が連動し、いきいきと楽しく仕事ができる会社
- 「楽しい仕事」とは
病を治したい患者さんや健康を求めるお客様に役立つように、社会に対して製品を供給する喜びを味わえる仕事

社是・経営理念・行動指針

行動指針

経営理念のもと、選ばれ続ける企業を目指します。



当社は、人々の健やかな生活と、成長を目指し、高品質な医薬品の安定供給に努め、日々邁進しています。

Next Phase

選ばれ続ける企業へ

みなさまからの信頼、サポートに感謝し、ずっと選ばれ続ける企業を目指します。

- 誠実な姿勢 法令を遵守し、公正、公平に活動します
- みなさまからの信頼 更なる品質の向上とお客さまへの確実な供給を行います
- 社会への貢献 日々の活動を通し、みなさまを支えます
- 環境との調和 環境に配慮し、地球とともに歩みます
- 更なる挑戦 新たな分野、新たな技術へ挑戦します
- 世界への飛躍 世界を舞台として優れた医薬品を提供します

沿革

1942年	6月	富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制会社として大東亜薬品交易統制株式会社を設立 ※1991年 ダイト株式会社(現社名)に商号変更
1949年	3月	配置用医薬品製造を開始
1950年	6月	原薬卸業部門を開設し、原薬の販売を開始
1976年	10月	医療用医薬品(ジェネリック医薬品)の製造を開始
1979年	11月	原薬の製造を開始
1985年	4月	OTC医薬品の製造を開始
1987年	7月	大和薬品工業株式会社を子会社化 ※2007年10月 株式交換により完全子会社化
1989年	10月	原薬の新薬中間体の受託製造を開始
2001年	9月	医療用医薬品の受託製造を本格的に開始
2007年	11月	米国イリノイ州に駐在員事務所を設置 ※2008年6月 廃止
2008年	6月	Daito Pharmaceuticals America, Inc.設立
2010年	3月	東京証券取引所市場第2部に上場
2011年	3月	第1部に指定
2012年	9月	安徽微納生命科学技術開発有限責任公司を子会社化 [現社名：大桐製薬(中国)有限責任公司]
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行

設備の状況

1949年	事務所・工場を新設
1971年	研究所を富山市に新設 ※1985年同研究所を本社工場の隣接地に新設・移転
1979年	第一製剤棟を新設
1979年	原薬実験棟を新設
1985年	第二製剤棟を新設
1982年	第一原薬棟を新設
1986年	原薬包装棟を新設
1989年	第一物流センターを新設
1989年	第二原薬棟を新設
1993年	第三製剤棟を新設
1995年	第二物流センターを新設
1999年	第三原薬棟を新設
2001年	第五製剤棟を新設
2001年	第三物流センターを新設
2003年	第二包装棟を新設
2007年	第三包装棟を新設
2007年	第五原薬棟を新設
2008年	第六製剤棟を新設
2007年	第五物流センターを新設
2011年	厚生棟を新設
2012年	第五原薬棟設備を増設
2014年	大桐製薬(中国)に製剤棟新設
2014年	高薬理製剤棟新設
2014年	大和薬品工業(株)に原薬工場棟新設
2015年	第六原薬棟新設
2015年	第三原薬包装棟新設
2016年	原薬工業化プロセス研究棟新設
2017年	高薬理R&Dセンター新設
2018年	第八製剤棟を新設
2021年	品質保証棟を新設
2022年	第七原薬棟新設
2023年	第十製剤棟を新設
2024年	総合研究センターを新設

当社グループ企業関連図

